

(12) まつ (観賞用マツ)

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 葉ふるい病 <i>Lophodermium conigenum</i> など	1. 樹勢を弱らせないようにする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本病害を対象に防除しているところでは葉さび病、こぶ病の発生が少ない。	生 育 期	M1 M1	キノンドー水和剤40 ドウグリン水和剤
2 斑点症 (シュート・サコホウ菌)	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本病害を対象に防除しているところでは葉ふるい病、葉枯病、葉さび病、こぶ病の発生が少ない。	発 生 初 期	1 M3	トップジンM水和剤 ペンコゼブ水和剤
3 炭疽病 <i>Gloeosporium</i> sp.	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本病害を対象に防除しているところでは葉さび病、こぶ病の発生が少ない。	発 生 初 期	3	アンビルフロアブル
4 うどんこ病 <i>Oidium</i> sp.	〈薬剤使用の特記事項〉 1. 本病害を対象に防除しているところでは葉さび病、こぶ病の発生が少ない。	発 生 初 期	3	トリフミン水和剤
5 マツノマダラカミキリ成虫	1. 樹勢を弱らせないようにする。 2. 被害木は早め(5月上旬頃まで)に伐採し、成虫発生防止に留意して適正に処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スミパインは2~3週間間隔で、ネオニコチノイド剤(マツグリーン、モリエート、エコワン)は3~4週間間隔で、2~3回施用する。	5月中旬 ~8月下旬	1B 4A 4A 4A	スミパイン乳剤 マツグリーン液剤2 モリエートSC エコワン3フロアブル
6 マツカレハ	1. 秋期幼虫の越冬前に、樹幹にわら等を巻き、わら等を2月上旬頃に除き、処分する。	幼 虫 発 生 期 (6~9月)	1B 3A 4A 15	スミパイン乳剤 トレボン乳剤 マツグリーン液剤2 デミリン水和剤
7 ケムシ類		発 生 初 期	3A 4A 4A	アデイオン乳剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤
8 アブラムシ類	1. シルバーマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバータープを使用する。	発 生 初 期	3A 4A 4A	アデイオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 マツグリーン液剤2
9 ハダニ類	1. 発生が少なく、部分的である場合は被害枝の切除が有効である。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 石灰硫黄合剤でハダニ類を対象に防除しているところでは、葉ふるい病、葉枯病、葉さび病、こぶ病の発生が少ない。	新 梢 発 生 前 発 生 初 期	M2 10B	石灰硫黄合剤 パロックフロアブル
10 カイガラムシ類	1. 発生が少なく、部分的である場合は被害枝の切除が有効である。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ラビサンスプレーで防除しているところでは、ハダニ類の発生が少ない。	4月中旬 ~5月中旬 6月下旬 ~8月上旬	1B UNM	カルホス乳剤 ラビサンスプレー
11 ハバチ類	1. 発生が少なく、部分的である場合は被害枝の切除が有効である。	6月下旬 ~7月下旬	1B 15	スミパイン乳剤 デミリン水和剤
12 センチュウ類	〈薬剤使用の特記事項〉 1. スミパイン乳剤はオオハリセンチュウに登録がある。 2. ネマバスターはマツノザイセンチュウに登録がある。	移 植 前 鉢 上 げ 活 着 後	1B 1B	スミパイン乳剤 ネマバスター

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する